

様式2

令和3年度 小林市立紙屋中学校 学校関係者評価書

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校の経営ビジョン	自立と自律の精神を身に付け、夢の実現のために努力する生徒を育成する。そのために、 ①「個に応じた指導による確かな学力の育成、ICTを活用した分かる授業の充実」 ②「命の大切さを知り、思いやりの心や感謝の心を育成する教育」 ③「体育的行事や放課後の運動などを通じた体力づくり、安全教育と食育指導の充実」 に全職員で取り組み、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。			
-----------	---	--	--	--

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
知育	1 ミニ授業やテスト対策への時間の工夫。	朝自習の時間を活用したミニ授業については、各教科担任が創意工夫を加えながら、年間を通して充実した取組を行うことができた。テスト対策として、第3回校内テスト前に「学力向上強化旬間」を特設し、全職員・全生徒で学力の向上を目指す取組を行った。	3.2	3.1	○ ミニ授業や学力向上強化旬間などを特設してもらったおかげで、学力が目に見える様子上がったと思う。 ○ 紙屋中は、少人数でも大きな学校に負けない学力が身に付いているのではないと思う。 ○ 多くの時間をさいて熱心に指導していただけていますが、校内テストの平均点が70点以上の生徒の割合が前年度より下がっているのは残念です。 ○ コロナ禍という時期に、ICT機器を活用できることは、生徒も安心して学習できるのではないのでしょうか。ICT機器の良いところを上手く使って、学習での成果が上がっていかれるといいと思います。 ○ 授業時間外（昼休みや放課後）を使っでの指導を継続することで、家庭での学習にも繋がっていくと思う。
	2 基礎・基本の定着と分かる授業の構築。	本年度3回行われた校内テストの平均点が70点以上の生徒の割合は54.5%で、目標を大きく下回る結果であった。第3回校内テストの際に、全教員で共通実践したテストの対策及び分析、授業改善を、継続的な取組として充実させていく必要がある。			
	3 ICT機器の効果的活用と実践。	デジタル教科書やICT機器を活用した授業への積極的参加に対する生徒の自己評価は3.5で、昨年度より0.5ポイント向上していた。また、校内における教員のICT研修会や授業での活用の機会も、昨年度より増やすことができた。			
	4 個に応じた指導と家庭学習の充実。	個に応じた授業や指導については、日々課題を実施したり、昼休みや放課後を活用した個別指導を行ったりすることができた。また、子どもたちの実態に合わせた自作のワークシートを授業で活用している教科もある。家庭学習の充実については、教員の自己評価が2.7、生徒及び保護者の自己評価の平均が2.95とやや低く、学校と家庭との連携をさらに深めながら充実を図っていく必要がある。			
徳育	1 道徳の時間等を活用した心の教育の充実。	小学校と連携して、本中学校区ならではの「考え、議論する道徳」の授業を確立し、11月に研究公開で他校へ紹介することもできた。「思いやりのある言葉遣いができ、あいさつは自分から率先してできたか」の問いに対する生徒の自己評価が3.0、保護者の評価が3.3で、昨年度と比較するとある程度の達成を得ることができた。	3.3	3.4	○ 研究公開の授業は、小学校しか見ることができませんでしたが、おそらく中学生達も活発な議論がなされていたのではないかと思います。自分の意見を述べること、相手の意見を聴くことを大切にしてほしいです。 ○ あいさつができる子供は増えたと思うが、率先してできたかに関しては、少しずつではあるが意識的に変わってきたと思う。 ○ 西諸地区や宮日新聞への投稿に、紙屋中学校の名前が載っていると頑張っているなと思いますので、引き続きご指導をお願いします。 ○ 新聞等で紙屋中生徒の作品を目にすることがあり、うれしい限りである。 ○ 読み聞かせの実施や、高妻神社の清掃等、他校にない心の学びが広がっていると思います。勉強さえしていれば良いのではなく、幅広い人生の考え方が身に付いていくのではないのでしょうか。 ○ 生徒会活動、委員会活動では、活動内容を見ていると、見ていて楽しい。積極的に取り組んでいると見受けられる。
	2 言語による創作を通じた豊かな心の育成。	例年どおり、生徒作品の各種コンクールや新聞への投稿等を、積極的に継続することができた。また、入賞した生徒作品を、表彰や掲示、学校だよりへの掲載等で称賛する機会をもつこともできた。			
	3 地域と連携を図ったボランティア活動の充実。	「毎日の清掃や高妻神社清掃等に積極的に取り組んだか」の問いに対する生徒の自己評価は3.4と高く、積極的な取組が見られた。今後も高妻神社清掃等のボランティア活動の充実を図り、「ふるさと愛」の育成につなげていきたい。			
	4 自立と自律を意識した生徒会活動の活性化。	生徒会活動（学校行事等）への参加に対する自己評価は、生徒3.6、保護者3.7で高い評価であった。委員会活動でも、生徒たちが自ら考え、動いている様子を見ることができた。			
体育	1 新体力テスト結果の把握と肥満度ゼロ。	体力向上に対する生徒・保護者の自己評価は、3.2、3.5と高い評価であった。しかし、新体力テストにおけるE段階の割合は0%であったが、D段階の割合が11%で、わずかではあるが目標を達成することができなかった。肥満度ゼロまではあと2名となっており、自己の健康に対する指導や個別のアプローチを継続させていきたい。	3.3	3.3	○ もっと高い水準にもっていきけるのではないかと思います。 ○ 小中合同運動会で、中学生が率先して進行や参加しているのは良いことです。 ○ コロナ禍で体を動かすことが少なくなってきたと言われてます。年間通じた体力作りを続けてほしいと思います。 ○ 我が家の孫もスマホを見る時間が多く、屋外で遊ぶ時間が少なく、体力の低下に一因があるのかなとも思います。 ○ 肥満度ゼロまではあと2名となっており、自己の健康に対する指導は良いと思うが、女子生徒であった場合、個別のアプローチは極力気を配り対応、継続してほしい。 ○ 給食残食ゼロに関しては、給食担当の先生に感謝しています。毎日のメニューが楽しみで、朝、確認していく子供もいます。 ○ 身内に給食センターに勤務する者がいて、かねがね給食残食ゼロは聞いてますので立派だと思います。
	2 むし歯の治療率100%、給食残食ゼロ、朝食欠食ゼロ。	給食残食ゼロは達成することができた。しかし、むし歯の治療率100%まであと2名、朝食欠食ゼロまであと2名であり、家庭と連携を図りながら継続して指導していく必要がある。			
	3 立腰による精神バランス感覚の向上。	年度始めに、全校生徒に対して立腰の意義の理解を図る機会をつくることができた。様々な場面での実践を推進していくために、全職員で継続した指導に努めていく必要がある。			
食育	1 日々の安全指導の充実と命を大切にする教育の推進。	校内安全点検を毎月実施し、危険箇所や要修繕箇所の確認と改善に努めている。いのちを大切にする教育の推進については、7月・12月の「いのち」や「いじめ」をテーマとした道徳の授業実践や、「紙屋中学校いじめ追放宣言」の校内掲示及び朝の会での唱和等の取組を継続させることができた。	3.3	3.4	○ 校内危険箇所や要修繕箇所の確認と改善では、先生方の早期発見、早期改善で事故を未然に防いでいると思う。 ○ 食育のおかげで、紙屋中の生徒は明るく素直なのではないと思う。 ○ 食育は、問題が起こらない精神面とつながっているのではないのでしょうか。（子供たちの心の安定となっている。） ○ 地域の方や保護者の方と、米作り、餅つき会を実施されたこと、すばらしいつながりだと思えます。全ての人や物がつながっていることを実際に体験し感じることで、生徒さん方の豊かな心を育てたのではないのでしょうか。 ○ 稲作の体験を通して地域コーディネーターや保護者、命をもつ食物に対し感謝し、食べ物を大切にする、完食する気持ちをもった人に育ってほしい。
	2 年3回の弁当の日の充実と食育の推進。	年3回の弁当の日を計画どおり実施することができている。弁当の日への取組に対する生徒と保護者の自己評価は、3.3、3.2と高評価であり、生徒たちの食への関心も高い。			
	3 田植え・稲刈り体験による『食』への感謝の気持ちの育成。	地域コーディネーターや保護者に支援・協力をいただきながら、小中合同での米作りと中学校単独での餅つき会を実施することができた。「食への感謝の気持ちを持つことができたか」の問いに対する生徒の自己評価は3.6で、目標を達成することができたと考えられる。			
その他	1 家庭・地域との連携・協働。	学校ホームページ、学校だより、学級通信、学校メール、新聞への投稿等を通して、家庭や地域への周知、理解を深めるための発信を継続的に行うことができた。作文や詩、俳句、短歌等の生徒作品が、4月から現在（2月9日）までの新聞に28回掲載された。保護者との連携については、「保護者として、参観日や学校行事などに積極的に参加しましたか」の問いに対する保護者の自己評価は3.3と高く、学校行事等への保護者の積極的な協力がとても印象的であった。地域人材の活用については、「地域と連携した行事（田植え・収穫、神社清掃など）に積極的に取り組んだか」の問いに対する生徒の自己評価が3.8と非常に高く、十分に目標が達成できている。	3.3	3.3	○ 学校だよりや新聞紙上での活躍ぶりを、とても嬉しく拝見しています。先生方の日頃からの努力が実を結んでいるのですね。 ○ 新型コロナウイルス感染防止のため、中止となった行事等もあったが、学校だよりや学級通信等で学校の取組を知ることができました。 ○ 学校ホームページで、生徒さん方が中学生生活を充実している姿がうかがえます。たくさん写真のアップを、ありがとうございます。 ○ 先生方と保護者との連携については、学校での子供の様子等を細かく伝えてくれるので、とても助かっています。 ○ もう少し地域に向けての中学校の様子を発信していった方が良いのではないかと思います。 ○ 毎年地域を巻き込んだ行事等を計画してもらって、熱心さに地域も元気が出ます。 ○ 紙屋中学校では、保護者の方々も非常に熱心に行事等に参加してくれるので、とても助かっています。 ○ 働き方改革を、今後も続けてもらいたいです。 ○ 外から見て働き方改革が行われているのか、実態がよく分からない。
	2 働き方改革の推進。	働き方改革については、家庭や地域との連携による業務の役割分担と適正化への取組も推進していきたい。			

次年度の方向性についての校長所見	【知育】 生徒の自己評価では、「校内テストで70点以上を取るよう努力したか」が3.2で、「授業には真剣に取り組んだか」が3.3であり、昨年度と比較しても高い結果が得られた。しかし、校内外におけるテストや各種検定試験等の結果では、学年差や個人差が見られた。次年度は、基礎・基本の定着と分かる授業の構築を図っていくために、全教員によるテスト結果の分析及び工夫・改善の充実を図ってきたい。 【徳育】 11月に開催した小林市小中一貫教育推進モデル校委託事業（徳育）の研究公開に向けて、小学校と連携して徳育分野の教育を深化・充実させることができた。次年度は、本年度の研究の成果を生かしながら、「考え、議論する道徳」の授業づくり、実践力につながる取組、評価の工夫、家庭との連携等についての研究を継続して推進していきたい。 【体育】 本年度も、給食は好き嫌いせずに残さず食べ、残食ゼロを年間通して達成することができた。また、体力向上に向けての取組については、指導を充実させることができた。しかし、健やかな体の育成への取組（治療受診の必要な人の病院受診）や自力登校、自己の健康維持への関心については改善を要すると考える。次年度は、年間通じてこれらの取組に対する指導の充実を図ってきたい。 【食育】 いのちを大切にする教育や弁当の日を通じた食育への関心を高める指導、田植え・稲刈り体験による『食』への感謝の気持ちの育成については、ほぼ目標を達成することができたと考えられる。次年度は、日々の安全指導や定期的な安全点検をさらに充実させていくことによって、生徒・教職員共に常在危機の意識の高揚を図っていきけるよう努めていきたい。 【その他】 新型コロナウイルス感染防止のために中止とせざるを得なかった行事等もあったが、家庭や地域との連携・協働については充実した取組を行えたと思う。次年度も、家庭や地域への周知、理解を深めるために、学校ホームページや学校だより、学級通信、生徒作品の新聞投稿等を通して、学校の様子や情報を積極的に発信していきたい。
------------------	---